

細則様式第 4 号

論文審査及び最終試験結果報告書			
氏 名	Chanis Pornnumpa		
入学年度	平成 25 年度	学籍番号	13GG701
領 域	医療生命科学領域	分 野	放射線生命科学分野
審査委員	主 査	柏倉 幾郎	
	副 査	中村 敏也	
	副 査	井瀧 千恵子	
	副 査	床次 眞司	

論文題目： 環境中の放射性核種による線量評価

審査結果要旨：本研究では、環境中に存在する放射性物質により公衆がどの程度被ばくしているかを把握するための様々なアプローチを行っている。学位論文としては3つの章に分けられている。第1章では、我が国の一般家屋内で天然放射性物質の一つであるラドンによる内部被ばくの状況を明らかにするとともに、被ばく線量の低減化について、市販の電化製品を用いて定量的に評価している。その結果として、換気装置とエアコンが低減の有効なツールであることを示した。これらの成果は、国際学術誌 *Radiation Protection Dosimetry* にタイトル名 "Characteristics of indoor radon and its progeny in a Japanese dwelling while using air appliances" {167:87-91, 2015} で筆頭著者として掲載済みである。第2章では、福島原発事故以降、被災地（ここでは浪江町を対象）における空間線量率の調査を継続的に行い、線量の減少率を被災地全体にわたって定量的に評価している。このデータは自治体による帰還の判断に有効な情報として活用が期待される。第3章では放射能測定値の品質保証・品質管理を目的とした放射性ガスモニタ用ばく露装置の開発と性能が記載され、本装置は長期間にわたり安定したばく露が可能であることが示された。今後国内外での品質維持に大きく貢献できるものと考えられる。

学位論文には研究課題に関する内容が系統的かつ過不足なく記述されており、審査会では研究内容の意義及び結果について十分理解している事が確認された。さらに、申請者の研究領域に関する知識と、自立して研究を遂行できる能力を備えていることも確認された。

以上の結果から、研究内容は博士論文に十分な内容を有し、申請者は博士（保健学）に相応しいと判定した。

最終試験 平成 28年 2月2日

試験の結果は 合 格 ・ 不 合 格 と判定する。